

いきいき 行人

納得のいく演奏で彩の国・埼玉 ピアノコンクール金賞を受賞

安永 桜子さん（18歳・持田）

今月は、第21回彩の国・埼玉ピアノコンクールE部門（高校生部）で金賞を受賞した安永桜子さんを紹介します。

安永さんがピアノを始めたのは5歳のころ。お姉さんがピアノを習っていたことと、お母さんの勧めもあり、音楽教室へ毎週通うようになり、音楽の楽しさを覚えたそうです。学校での合唱コンクールでも伴奏を担当するなど、ピアノ演奏では周囲から頼られる存在となっていた安永さんは、中学3年生の進路選択の際、悩んだ末に東京の桐朋女子高等学校音楽科に進むことを決めました。午前5時30分に起床し片道2時間掛けて通学。音楽科目の授業に加え、レッスンを受けたり、帰宅してからも練習に励んだり、安永さんが鍵盤に触れない日はありません。

これまでの努力は次第に実力に結びつき、



全日本学生音楽コンクールや大阪国際コンクールなど、大きなコンクールでの入選を果たしてきた安永さん。昨年8月の予選、9月の準本選を経て11月に本選へ進んだ第21回彩の国・埼玉ピアノコンクールでは、周りを気にすることなく集中して演奏に臨むことができたそうです。しかし、中学1年のときにこのコンクールで銅賞を受賞した経験や今までの入賞歴から「今回も取れて銅賞まで」とこれまで以上の成績をあきらめていた安永さんですが、自らの予想を覆す金賞受賞に「すごく緊張したけれど、自分に合った課題曲だったので納得のいく演奏ができました。指導してくれた先生にも感謝しています」と喜びもひとしお。さらに、特別賞の埼玉新聞社賞やE部門およびF部門（大学生）の県内在住者のうち最優秀者に贈られる彩の国・ピアノコンクール賞など、4つもの賞を受賞する記念すべきコンクールとなりました。

毎日の練習の積み重ねにより、今では精神面や技術面での成長が演奏に現れてきており、今後、さらに深くピアノを学ぶため大学に進学すること。ピアノ教室で子供たちの指導に当たるお姉さんの手伝いも楽しみながら「将来は音楽に携わる仕事をしたい」と力強く話す安永さんは、これから自分の歩む姿をしっかと描いています。

私の作品

俳句

佐間 根岸 克美
対面の湖に色置く冬紅葉

桜町 大塚 保子
帰り花人生いつも七転び

下中条 飯塚よね子
渡り来る対岸の風冬兆す

北河原 小島 光子
庭先の池に顔出す栗名月

南河原 若林 水翁
白鳥を待つ一村の空広し

門井町 森下さとし
八ヶ岳肩組合いて冬に入る

荒木 高沢よね子
地に低く黄泉路照らせよ秋の蝶

下中条 大澤シズ子
柿熟るる夫婦凡愚に五十年

城南 千代田富子
朝いちに線香のけむる菊の花

棚田町 財津ミチエ
菊盛り一期一会の花香る

前谷 町田 貞子

松茸や今年も横目で覗むだけ

桜町 吉岡 守子

青い空花梨の黄色二つ三つ

渡柳 長森 伊代

小春日にのびくと寝る猫愛す

城西 八木橋近蔵

足湯にて話はずみし国なまり

富士見町 森 節子

高々と取り残されし柿二つ

（木島 斗川 監修）



『忍城』

ホザナ保育園園児（3歳～5歳児）

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。